



▲現在の「百年記念塔」。「立入禁止」の看板が建てられている(右頁写真も)

『北海道 百年記念塔』 なぜいま「解体ありき」なのか ～地元「存 ウラ

『北海道 百年記念塔』 「解体ありき」なのか 「継続希望」を無視する にあるもの～



札幌市厚別区の野幌森林公園内にある北海道百年記念塔の解体工事が今年秋にも始まる。9月の定例道議会を経て業者と契約し、10月にも着工する見通しで2年後の2024年5月までに道民に親しまれてきた100歳の塔が消えようとしている。

だが、地元住民や北海道の開拓の歴史を重んじる市民団体や地元選出の衆院議員らからの反対の声は根強く、本当に工事ができるのか疑問視する声もある。なぜいま「解体ありき」で道民の財産が取り壊されるのか。

(ジャーナリスト・黒田 伸)

「解体」予算 計上の疑問

新年度予算が執行される直前の3月31日午後、百年記念塔を訪れると周辺にはまだ雪があったものの記念塔への歩道は除雪され、ジヨギングを楽しむ男性もいた。

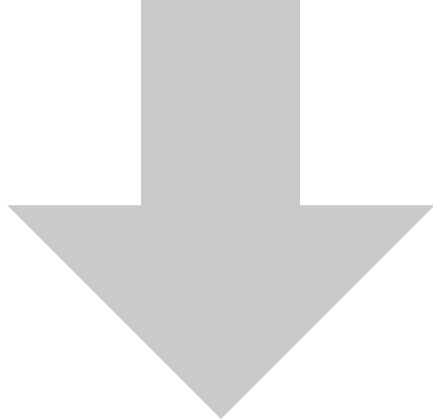
記念塔から20メートルほど離れて、白い板に赤いペンキで「立ち入り禁止」と書かれた看板が数枚設置され、その間を建築現場で使われる黄色と黒のロープで囲っている。

これだけではなぜ、記念塔に近づけないのか理由がわからない。雪が解ければ、記念塔から落下物がある可能性など、危険であることを周知する書き込みがあるのかもしれないが、初めてここを訪れた人たちは、こげ茶色

「危険度」算定に疑問が…

道は本年度予算案に解体費約6億4500万円のうち電気設備工事費など約4300万円を計上。道議会予算

特別委員会で、解体工事について10月にも着手し2024年5月までに完了させる方針を示した。



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)